The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	マラルメのContes indiens : その書き換えのテクニックについて
Author(s)	高岡, 厚子
Citation	Gallia. 1983, 21-22, p. 156-166
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/10368
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

マラルメの *Contes indiens*
― その書き換えのテクニックについて ―

高　岡　厚　子

マラルメの *Contes indiens* は1927年ボニオの手によって限定版として，モーリス・レイの東洋風の絵入りの豪華版で出版されたが，ボニオはこの制作年代を1893年頃と推定している。ボニオはこの本の序論に於いて *Contes indiens* の原典を問うているが，1938年にケノーが *Mercure de France* に載せた論文《L'Origine des *Contes indiens* de Mallarmé》[1]によってそれはメリ・サマーの *Contes et légendes de l'Inde ancienne*[2]である事が明らかにされた。ケノーによれば，マラルメはサロンで親しくしていたメリー・ローランからこの作品を書き換えるよう依頼され，彼女を喜ばせる為にサマーの *Contes* の中から最も美しいと思われる四点を選んで自己流に書き直す事を承知したのである。第一番目の *Le portrait enchanté* はサマーの *Le meurtrier par amour filial* に，第二番目の *La fausse vieille* はサマーの *La fausse vieille* に又第三番目の *Le mort vivant* はサマーの *Le mort vivant* に手を入れたものであり，最後の *Nala et Damayanti* は有名なマーハ・バラータのエピソードであるが，同じくサマーの *Nala et Damayanti* に手を加えたものである。

サマーの *Contes* の書き直しにあたってマラルメはメリー・ローランに宛てて次のように書き送っている。

> J'ai repris fil à fil, comme une broderie, ce conte, le consolidant, et je me suis permis d'y ajouter légèrement quelques traits de couleur orientale.[3]

この手紙の中で語られている“刺繍のように一針一針”推敲していくという考え方は既に *La dernière mode* の中で“une langue, loin de livrer au hasard sa formation, est composée à l'égard d'un merveilleux ouvrage de broderie”[4]と述べているのと共通するものであるが，我々はここにマラルメの二つの意図を汲み取る事が出来る。一つは刺繍をするように一語一語入念に書き換えていこうとしている事，一つは女性が刺繍をするように楽しみながら書き換えていこうとしている事である。この二つの意図でもって，マラルメがサマーの *Contes* にどのように手を加え，文体を磨き上げていったかを二つの

作品を読み比べる事によって見ていく事がこの小論のねらいである。

二つの *Contes* の間には話の筋の相違は一際見られない。マラルメがサマーの文章をそのまゝ書き写しているところが大部分で両者の作品は著しく類似している。ところどころでサマーの文章の順序を変えたり，文章や言葉の省略，補足，短縮といった操作を通して推敲を重ねていくのであるが，平凡なサマーの文章が，一旦この天才の手によると見事に甦るのを我々は目の当たりにするのである。

> Dans le royaume de Mathura pareil à la queue d'un paon, où le sol, au lieu de fleurs, entr'ouvre des yeux d'émeraude et de diamant, vivaient, sous ce regard, deux petites princesses, leur mère morte de bonne heure.(5)

これは第二番目のコント *La fausse vieille* の書き出しであるが，サマーのそれと比べてみよう。

> Dans le beau royaume de Mathoura, où le sol est pavé de corail et de diamants, vivaient deux charmantes petites princesses qui avaient perdu leur mère de bonne heure.(6)

これは，使われている言葉も内容も類似していながら，少しの書き加えによって如何にマラルメ的に書き換えられているかを我々に示してくれる良き例であるが，ここで我々はマラルメの書き換えに際しての二つのテクニックに注目しよう。第一には figures のテクニックであり，"pareil à la queue de paon" の表現にみられるような comparaison や或は "le sol entr'ouvre des yeux d'émeraude et de diamant" の表現に見られるような métaphore が使われている。この comparaison と métaphore は le démon de l'analogie といわれるマラルメが特に好んで用いた figures である。第二には thèmes のテクニックであるが，comparaison や métaphore のテーマに "le queue de paon" や "émeraude", "diamant" といったこれも又マラルメのお気入りのテーマを用いて，サマーの *Contes* をマラルメ的なイマージュの世界へと引き入れ，変様させている。両者の作品の読み比べに際し，この二つのテクニック即ち figures と thèmes に焦点を合わせてみたい。前者のテクニックでは comparaison と métaphore だけを扱う。

Figures

1. Comparaison

複雑な figures を使用するマラルメが,レトリックの中でも最もありふれた comparaison を好んで用いる事はアイッシュが指摘するところであるが，マラルメの *Contes* に於いてもかなり数多くの comparaison が使われている。サマーの *Contes* にも既に comparaison があり，マラルメはサマーの comparaison をそのまゝ書き写している事も多い。数例挙げてみると，

travailleuse *comme une fille de champ* (*f. v.*, p.602)
aussi froide *que la neige de l'Himalaya* (*p. e.*, p.589)
aussi noire *que l'abeille de l'Inde* (*f.v.*, p.603)
un geste prompt *comme l'éclair* (*f.v.*, p.600)
aussi majestueux que le lion (*N. et D.*, p.625)

等であるがいずれも具体的なものが analogie の対象になりわかり易いが平凡なものばかりである。

又サマーの comparaison を少し変型して借用する事もある。即ち "comme un enfant mutin"[7]を"comme un enfaut boudeur" (*p.e.*, p.593) に "comme la voile qui s'abat sur un mât"[8]を "ainsi que s'abat la voile sur un mât" に，又 "comme de la dentelle"[9](*p.e.*, p.587) を "pareil à la dentelle" (*m.y.*, p.608) に書き換え，文章の句調を整える効果を出している。

しかしマラルメの *Contes* に見出される60余りの comparaison のうち三分の二の comparaison はマラルメの手によって書き加えられたものであり，他の作品に見られるのと同様に一見ありふれたものでありながら,突飛で思いもかけない独創的な comparaison が作り出されていくのである。

et du même trait je comprends mon devoir en le péril de la subtile exhibition, ou il n'y avait au monde pour conjurer la défection dans les curiosités que de recourir à quelque puissance absolue, *comme d'une Métaphore* (*Déclaration foraine*, p.281)

これはマラルメ的な comparaison の一つで名詞が comme の後に来る comparaison directe であり，その名詞が抽象名詞である為に特異なものとなっている例であるが,

Contes の中にも同じような comparaison が使われている。

Une inspiration que , seuls, les deux époux reconnaissent celle de la Péri favorable et reconciliée, évoque *comme une allégorie,* réelle parce que cette rivale y prend part (*Le mort vivant,* p.615)

Elle accepte résolument, et sans repousser *comme un présage sombre,* (*Le mort vivant,* p.607)

又ダンサーを雪の一ひらにたとえたり,

Quand, au lever du rideau dans une salle de gala et tout local apparaît *ainsi qu'un flocon* d'où soufflé? (*Fonds,* p.181)

若い娘の眉を鷗の飛翔にたとえたり,

Que rien n'étonne ton sourcil

Vaste comm Vaste *comme un vol de mouette* (*vers de circonstance,* p. 90

といった, 同じく comparaison ではあるが, comme の後に動きを持った物をもってくる事によって現実を再生させるやり方もマラルメの好む comparaison の一つであるが, *Contes* に於いてもこのような comparaison が幾例か見られる。

Ce suprême voile flotte aux contours, hésite et disparaît *comme un nuage idéal,* (La fausse vieille, p.603)

dans l'air mille grains, *comme une pluie,* tombent à terre, c'est le collier. (Le mort vivant, p. 614)

又,

Chaque page de la brochure annonce et jette haut *comme des traits d'or vibratoire* ces saintes règles du premier et dernier des Arts. (*Solennité,* p. 334)

に見られるように文の途中に一見あまり関係のないと思われる comparaison が挿入され, 詩人の考え方の多様性や敏捷さを現す効果をねらう comparaison intercalée をマラルメはしばしば使うが *Contes* にも同じような comparaison がある。

Sur un fond de magnificence asiatique renouvelé toujours, *comme jaillirait par soi-même une splendeur de jet d'eau éternel,* lumineux et pur, va se détacher le si touchaut épisode. (*Le mort vivant,* p.615)

Elle distingue, sous un dais de deuil, voiles hésitant *ainsi qu'une fumée*

précieuse, an plafond, flamme abolie de panacles le corps étendu toujours du plus beau des hommes. (*Le mort vivant,* p.608)

2. Métaphore

comparaison に比べて métaphore はサマーの作品の中ではわずかの例を除いては殆んど皆無といっていいほどである。マラルメが一方的に métaphore を書き加えていったわけであるが，この métaphore も他の作品に使われているようなヴァラエティーに豊んだ独創的なものばかりである。

excepté l'affiche, *lapidaire,* envahissant le journal (*Musique et lettres,* p.72)

これは appositon の例であるが一見簡単に見えるこの形式をマラルメは好んで使っていて，思いがけない二つの事物が並例されている事が多い。*Contes* にはこの種の métaphore は10例程見られる。

La liane gracieuse des sourcils badine en suivant le contour des yeux, *ces lacs* où se fond l'éternel azur d'un bonheur. (*Le portrait enchanté,* p.592) Le bain, comme un grand regard, veillant un jour qui vient, *nappe limpide,* attendait les dormeuses... (*Le portrait enchanté,* p.596)

又，Le portrait enchanté の中に見られるような“Que les conquêtes de l'Amour *sont ailées de foudres* (p.590)”といった文章は原典の“Que les conquêtes de l'Amour sont rapides”[10] を書き換えたものであるが，原典での rapides の代りに“sont ailées de foudres”という表現を使って image を豊かにしている。これはマラルメがよく使う périphrase の例である。

dans *le naïf miroir,* elle sourit et s'admire (*f.v.,* p.603)

この一節は原典では“puis se penchant vers son miroir favori, elle sourit et s'admire”[11]となっているが，miroir に naïf というたった一語の形容詞の挿入によって文章が見事に甦る良き例であるが，これはレトリックによれば hypallage という手法である。naïf なのは実は elle でありながら miroir を修飾し読者の注意を向ける効果をねらっ

ている。

マラルメは以上のような伝統的な形の métaphore だけではなく，動詞や形容詞を一つ導入したり，二つの名詞を前置詞で結んだだけで奇抜な métaphore を作り出している。

動詞の導入による métaphore は中でも最も密度の高いものであり，マラルメの好んで用いるものである。*Contes* に於いても10例ばかりこの種の métaphore が使われている。

et partout, *fleurit* en moi, une blessure différente et délicieuse (*m.v.*, p.609)
l'astre au rai subtil *glacant* leur ingénuité (*f.v.*, p.599)
le pavillon *riait* dans les fleurs (*m.v.*, p.613)
Un siège *dardait* son regard multicolore (*N.et D.*)

上記の métaphore のうち下の二例はマラルメが最も頻繁に使う personnification の例でもある。

形容詞の場合も，マラルメの métaphore に於いては非常に重要な位置を示めていて，思いもつかないような形容詞を名詞につけて独創的な métaphore を作りあげている。*Contes* に於いてこの種の métaphore は30例ばかり見出されるが，動詞の場合と同じくpersonnification の例が多い。

des yeux de pierreries *stupéfaits* (p.e., p.596)
Une lampe, *jalouse,* écarte jusqu ä cet éclat, profane ou de dehors (*m.v.*, p.608)
Brûle, *menteuse* peau, exhala-t-il (*f.v.*, p.605)

又，色や香り，抽象概念をあらわす形容詞の例も多く見られる。

aux évolutions *délicieuses* de la danse (*m.v.*, p.615)
captif de ces ténèbres *parfumées* mais vulgaires (*p.e.*, p.591)
Ne froncez pas ce sourcil, il en tomberait dans notre bonheur, une minute *noire* (*m.v.*, p.611)

二つの具象或は抽象名詞を，類似性を持っもの同志或は類似性を持たないもの同志 de で結びつけてイマージュを構成する métaphore もマラルメの得意とするものであるが，*Contes* に於いてもこのような métaphore は20例ばかりある。具象名詞が組み合わされる場合が一番多く，

sous *les cieux de saphir brillant* (*p.e.*, p.589)
ouvrirent *des yeux de pierres stupéfaits* (*p.e.*, p.596)
non il ne faut pas ouvrir *cette bouche de perle* pour te remercier, (*p.e.*, p.593)

等の例の他にも5例程見られるが，下の二つの例は personnification の例でもある。又，抽象名詞が組み合わせられたり，

dispersaient à tous les recoins *les parfums de délire et d'oubli,* (*p.e.*, p.596)
l'entière noirceur de l'âme qui l'habita naguères, (*p.e.*, p.596)
des yeux, ces lacs où se fond *l'éternel azur d'un bonheur* (*p.e.*, p.592)

抽象，具象名詞が組み合わされたりしている。

l'agonie stellaire d'une lampe aux plafonds suspendus (*p.e.*, p.596)
aux *évolutions délicieuses de la danse* (*m.v.*, p.615)

このようにしてマラルメは，サマーの *Contes* に自己流の comparaison や métaphore といった figures を書き加え，マラルメ流の文体へと書き換えていくのであるが，次にはそのテーマに目を向けてみよう。

Thèmes

マラルメは「日常生活に基盤を置きながら，超自然的な詩を作る事を望んだ。」とアイッシュは述べているが，[12] マラルメの作品に於いては日常生活で目に触れる全てのものが，analogie の対象になり得たのである。花や果物，雪，太陽，月，泉，家，女性の化粧，芸術，科学，政治，戦争，宗教，死といったようにテーマは非常に多様であるが，マラルメが特に好んで度々用いたテーマは花や泉といった自然，女性の化粧等と関係するモード，音楽や踊りといった芸術等である。マラルメが書き加えた *Contes* の中に見られる comparaison や métaphore にはこのようなお気入りのテーマが選ばれている。

1. モード

このテーマはマラルメが1874年に編集したモード雑誌 *La dernière mode* の主要テーマであり，絶対性を求めた哲学詩人の持つ別の一面，即ち女性的なものを嗜好する，ダンディで気取り (précieux) のマラルメを恒間見ることの出来る興味深いものである。この

モードのテーマに関しては以前拙論[13]で宝石，衣裳，生地，装身具，香水のモチーフに分けて考察した事があるが，今回もこのモチーフを *Contes* の中に探してみたい。

宝　石

"La rêverie diamantaire domine enfin toute l'esthétique de Mallarmé,"[14] とジャン・ピエール・リシャールが指摘するように，輝やかしいきらめきの故にこの上なくマラルメの愛した宝石は彼の作品の中でいろいろな型をとって，あちこちに鏤められている。"Les yeux, semblables aux *pierres rares*"[15]や "diamants *au regard* et aux épaules"[16]と目が宝石にたとえられる事がしばしばあるが，このような例は *Contes* に於いても多く見られる。

ouvrir *des yeux de pierres stupéfaits* (p.e., p.596)
ouvrent *des yeux d'émeraude et de diamant* (*f.v.*, p.599)

又，宝石はその輝きの持つ流動性の故に，"Pour ouïr dans sa chair *pleurer le diamant*"[17]の例に見られるように流動物にたとえられることがあるが，これに似た例は *Contes* にも見られる。

Quelques gouttes de sueur, *ingénu collier glissé* (*N.etD.*, p.619)
Les cheveux qui font pleuvoir *le diamant* (p.e., p.592)

又，宝石は透明さ故に "Quelle pierrerie, *le ciel fluide*"[18] のように空や魂にたとえられるが *Contes* に於いても "Si vivait, sous *les cieux* de saphir brillant" (p.e., p.589) といった同じような例が見られる。

又，ルビーの赤さ故や口や唇にたとえられたり，清らかさ故にお守りにたとえられたり，又，きらびやかさの故に孔雀にたとえられたりして，あちこちで宝石のモチーフが扱われている。

衣　裳

La dernière mode のおしゃべりがきらびやかな女性の衣裳の話でうずめられていたが，この衣裳への関心はマラルメの他の作品にも表われている。あらゆる時期のあらゆる作品に於いて衣裳に関する一連の métaphore が織り込まれている。例えば，

Il s'immobilise au songe froid de mépris
Que *vêt* parmi l'exil inutile le cygne (*Le vierge...*, p.125)

の例のように動詞 vêtir によって衣裳のイマージュが浮彫りにされたり，“Tu *changes* d'an comme de robe” のようにドレスを comparaison の対象にしたりしているのであるが，この様な例は *Conts indiens* にもしばしば見られる。

Comme par les déchirures de sa robe (*N.et D*, p.624)

装飾品，生地，香水のモチーフも *Contes* に於いて，次の例のように織り込まれている。

ce bijou sacré, ...que je veux, *comme gorgerin*, proposer à la reine(*p.e.*, p.588)
le bain, comme un grand regard, *nappe* limpide. (*p.e.*, p.596)
“soutienne les nuages ainsi que d'oranges *étoffes*” (*N.et D.*, p.625)
“captif des os ténèbres *parfumés* mais vulgaires” (*p.e.*, p.591)
“*Les parfums* de délire et d'oubli” (*p.e.*, p.596)

2．自　然

自然はアイシュの指摘を待つ迄もなく[22]マラルメが comparaison や métaphore に一番多く使うテーマであり，マラルメの好きなテーマである。とりわけ花はマラルメの作品に於いて重要な役割を果たしている。中でもバラが一番お気入りの花であり，若い娘の顔，頬，唇にたとえられる事が多い。*Contes* に於いても “deux roses étaient *la bouche*” (*N.et.D.*, p.621) とバラが唇にたとえられ，又，“*tes doigts* menu et pareil à des fleurs” では花が指にたとえられている。又，“*fleurir* une blessure” (*N.et.D.*, p.609) といったように動詞 fleurir によって métaphore を作り，絵画的なイメージを作り出していることもある。

マラルメは完璧なるもののサンボルとして水を自然のテーマのうちでは一番重要視している。このテーマは川，泉，海，雨といろんなモチーフで扱われるが，目や口，髪の毛，花，そして鏡等にたとえられる事が多い。

Yeux, lacs avec ma simple ivresse de renaître (*pitre châtié*, p.20)

これは湖を目にたとえた例であるが，同じような métaphore が *Contes* にも見られる。

des yeux, ces lacs où se fond l'éternel azur d'un bonheur. (*p.e.*, p.592)
Le bain, *comme un grand regard*, veillant un jour qui vient (*p.e.* p.596)

又，雲や

Ce suprême voile flotte aux contours, hésite et disparaît *comme un nuage idéal,* la laissant plus que nue (*f.v.,* p.603)

Un nuage de tristesse comme il en passe sur les visages humains(*f.v.*,p.603)

星や

Tu vois ces branches aux fruits innombrables *comme les étoiles*(*N.et.D.*,p.628)

鳥等のように,

ainsi que le reflet *d'un vol* circulaire supérieur de pierrerie ou d'âme. (*m.v.,* p.615)

Dans le royaume de Mathoura pareil à *la queue d'un paon,* (*f.v.,* p.599)

マラルメの好んで用いたテーマが *Contes* のあちこちに見られる。

以上 figures の面と thèmes の面からマラルメがサマーの *Contes* をマラルメ的に変様させていく様子を見て来たのであるが，我々はこの試論から二つの結論を導きたい。一つはマラルメ自身が手紙で述べている如く,“刺繍をするように一針一針” 入念に作品の書き換えをし,それに際してマラルメが他の作品の制作にあたって使ったのと同じテクニック，即ち figures と thèmes を織り込んでいく事によってマラルメ的な作品に仕上げていった事である。単なる書き換えの作品として軽んずられるべきものではなく，一つの récréation の作品と言えるのではないだろうか。又，一つには *Contes indiens* には他の作品に表われたマラルメの好む thèmes が大部分扱われていてマラルメのイマージュの世界の再構成が行われている事は勿論ではあるが，*La dernière mode* の主要テーマを十分に織り込んで “刺繍をするように” 優雅に楽しく作品を仕上げていった事である。“*La dernière mode*” で強く打ち出された女性的なものを嗜好する気取った (précieux) マラルメの一面がここにも映し出されている。

ジャック・シェレールが “Ces contes merveilleux de travail, fruits du repos pourtant plus que du travail” と《*Notes sur les contes indiens*》[19]の論文を結んでいるが，決してこれは単なる休息 (repos) ではなく，絶対を求めて止まない哲学者マラルメが同時に持ち合わせているダンディで気取ったマラルメの真面目な仕事 (travail) と考えられるのではないだろうか。それ故我々はジュネットに賛同の意を表し，次の一節を結びの言葉に替えるのである。

La sensibilité mallarméenne s'en trouve éclairée d'une manière décisive, et certaines de ses œuvres trop négligées, *comme les Mots anglais, les Contes indiens,* les chroniques de *la Dernière Mode,* y prennent leur véritable relief.[20]

Notes

論文中の引用文は次のテキストから引用した。

MALLARME,S., *Œuvres complètes,* Paris, Gallimard, 〈pléiade〉, 1945

SUMMER,M., *Contes et légendes de l'Inde ancienne,* Paris Ernest Leroux, 1878

省略記号

p.e.——*Le portrait enchanté* *f.v.*——*La fausse vieille*

m.v.——*Le mort vivant* *N.et.D.*——*Nala et Damayanti*

(1) CUENOT,C.,〈L'Origine des *Contes indiens* de Mallarmé〉, le *Mercure de France,* 15 nov.1938 (CCLXXXVIII), p.117-126

(2) SUMMER,M., *Contes et légendes de l'Inde ancienne,* avec une introduction de P.E.Foucaux, Paris, Ernest Leroux, 1878, X−153p.

(3) LAFLECHE,G., *Mallarmé, Grammaire générative des contes indiens,* P.U. de Montréal, 1975, p.9から引用

(4) MALLARME,S., *Oeuvres complètes,* p.828

(5) ibid., p.599

(6) SUMMER,M., O.c., *Le meurtrier par l'amour filial,* p.17

(7) *ibid., Le portrait enchanté,* p.101

(8) *ibid., Le meurtrier par amour filial,* p.88

(9) *ibid., Le mort* vivant, p.39

(10) *ibid., Le meurtrier par amour filial,* p.6

(11) *ibid., La fausse vieille,* p.26

(12) AISH, *La métaphore dans l'oeuvre de Stéphane Mallarmé,* slatkine Rep., 1931, p.153

(13) 〈*La dernière mode* と *Poésies*〉, 待兼山論叢13号, 1979

(14) RICHARD,J.P., *L'univers imaginaire de Mallarmé,* Seuil, 1961, p.235

(15) MALLARME, O.c., *Le phénomène futur,* p.269

(16) *ibid., La dernière mode,* p.790

(17) *ibid., Dame sans trop d'ardeur à la fois enflammant,* p.98

(18) *ibid., conflit,* p.308

(19) SHERER,J.〈Notes sur Les *Contes indiens* de Mallarmé〉, le *Mercure de France,* 1er avril, 1938 (CCLXXXVIII), p.116

(20) GENETTE,G., *Figures,* Seuil, 1960, p.93 (旧姓 坂本 D.51 梅花女子大学講師)